

風土記の丘の花だより¹⁷⁰

今、そしてこれから見られる植物(2023年1月28日)



天気予報がピタリと当たって、大雪には驚きました。でも大池のカモたちは楽しそうにスイスイ泳いでいます。今年は2年ぶりにトモエガモというちょっと珍しいカモも来てくれています。肉眼ではわかりにくいですが、是非、双眼鏡で探してみてください。こんなカモです。かわいいでしょ。

さて、花だよりで紹介する花を探すのが日に日に難しくなってきました。でもなんとか、4つ紹介します。



ヤマアイの花がひっそりと咲いています。「アイ」というと藍染めを連想しますが、まったく関係のない植物です。藍染めのアイはタデ科、このヤマアイはトウダイグサ科という仲間です。昔は布を染めるのに使ったそうですが、今の藍染めのようにするのではなく、布に擦りつけて色を付けるだけなので、青ではなく、緑色だったと言われています。林のへりや林床などに群生します。これは柳川家や谷山家の南の山裾に群生しているものを撮影しました。



柳川家の北の通路沿いや谷山家の庭でクチナシの実がなっています。漢字では「梔」と書きますが、元は「口無し」です。これは実の上が開いているように見えて、開いていないので、穴がない・口がない、ということから名付けられたということです。(まあ、諸説あるのですが・・・)昔から、漬物や栗きんとんなどの食品の着色に使われ、きれいな黄色に染まります。



毎年この時期になると、この木を紹介しています。ヤマコウバシ、受験のお守り「落ちない木」です。冬、多くの落葉樹が葉を落としても、この木だけ葉が「落ちません」それで受験のお守りと言われるようになったのです。クスノキ科の木で、万葉植物園の中央あたりに植えられています。ほかに小早川家の南に石垣の上とか、野外でも様々なところで見かけます。夏場は分かりませんが、この時期はとても目立つので見つけやすいです。ホントに受験のお守りに1枚いかがですか？



フキの円い葉が落葉の中でよく目立ちます。小早川家のフキは毎年大きなふきのとうを出しますが、今年も大きくふくらんできています。でも、踏まれそうなので、簡単に縄を張っています。踏まない程度に観察してください。この葉柄を摘んで山菜として食べる方も多いですね。売っているフキに比べて細くて短いですが、野趣に富んだ味わいがあります。でも、風土記では控えてくださいね。

松下